

4月24日 金

医薬品製造の発展に向けて

G-9

医薬品市場に見られる変革の動き

10:45▶12:30

逐次通訳 英語▶日本語



アイ・エム・エスジャパン(株)
クライアント・リレーションズ ディレクター
アラントーマス 氏

先進国でパテント・クリフ影響が続いた一方、新興国は記録的成長を示し、2014年の世界医薬品市場は成長を維持。また、スペシャリティ領域やバイオ医薬品を中心に主要領域への投資と集中が継続し、画期的な新薬開発や既存製品も拡大しています。日本では薬価改定による成長鈍化や消費増税による受診率低下も見られる中、こうした主要領域については世界動向を反映しています。当日は世界における日本市場の役割、スペシャリティとバイオ医薬品の持つ機会についてもお話をさせていただきます。

G-10

日の丸ベンチャー発の新薬をめざして 欧米との違いから学ぶこと

13:30▶14:15

アライドラボラトリーズ(株) 代表取締役社長 栗田 壮太 氏



我が国は、多くの産業分野で先進技術の発信国としての重要な役割を果たしている。一方、イノベーションの供給源が創薬・バイオベンチャーへと変革を続けているライフサイエンス分野では、日本は欧米から大きく水をあけられていると認めざるを得ない。グローバルな視点で不可欠の医薬品開発において、我が国のバイオベンチャーが直面している課題とその解決策を、主に「モノ作り」の視点から、欧米との比較しながら考察したい。

G-11

エーザイの開発購買戦略と 原薬・中間体メーカー様への期待

14:45▶15:30

エーザイ(株) エーザイ・プロダクトクリエーション・システムズ
ファーマシューティカル・サイエンス & テクノロジー機能ユニット
グローバル原薬戦略担当 部長 柳 利治 氏



エーザイでは、日本、米国、インド、英国の計11サイトに、自社のCMC開発機能を置き、低分子から抗体医薬にわたる様々なプロジェクトについて開発活動を行っている。本講演では、エーザイにおける研究開発体制や開発段階におけるグローバル購買戦略について紹介すると共に、国内外の原薬・中間体メーカー様への期待についても触れる。